

3 天気の様子と気温

(平成 23 年度版)

東京書籍 4 年 5 月上旬～5 月中旬 6 (6) 時間

【単元の目標】 1 日の天気と気温の変化に興味をもち、実際に、晴れの日とくもりや雨の日に 1 日の気温を調べることによって、天気と 1 日の気温の変化とを関係付けて考え、天気によって、1 日の気温の変化のしかたに違いがあることをとらえることができるようにする。

学習活動とポイント項目

学習活動	時間	ポイント項目
第 1 次 1 日の気温はどのように変わるか	6 (6) 時間	
・これまでの経験から、天気と気温との関係について話し合い、1 日の気温の変化について考える。	1	1 導入について
・折れ線グラフのかき方を知り、晴れた日と、くもりや雨の日の 1 日の気温の変化を調べて、グラフにまとめる。【観察①】	3	2 手作り百葉箱をつくろう
・グラフを比較して 1 日の気温の変わり方について話し合ったり、まとめたりする。	1	3 天気の違いと気温の変化の様子
・天気による 1 日の気温の変化について、学習したことをまとめる。	1	

1 導入について

「晴れの日と雨の日では、あたたかさはどのように違いますか？」と問い掛け、これまでの経験を思い出させながら気付いたことを自由に発表させ、話し合わせる。この時、「朝は?」「昼は?」「夜は?」などと追加発問しながら、時刻によって気温が違うことも取り上げ、天気と気温との関係について考えたり調べようとする意欲を高めるようにする。

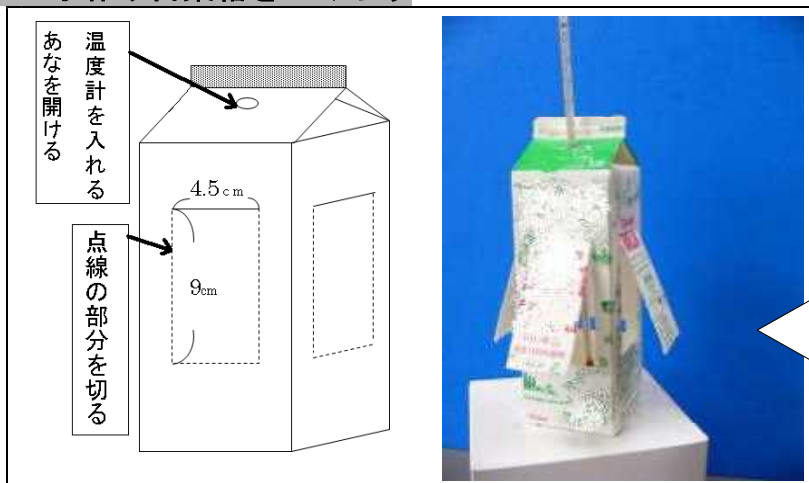
予想される児童の反応例

- ・晴れの日があたたかい、雨の日は少し寒い。
- ・太陽が当たるときと当たらないときでは、当たるときの方があたたかい。
- ・晴れの日でも、朝は寒いことがある。

これから学習すること

晴れた日と、くもりや雨の日の 1 日の気温は、時刻によってどのようになっているのか調べよう。

2 手作り百葉箱をつくろう



左のような手作り百葉箱を作り、温度を調べる意欲を高めさせるとともに、気温についての正確な理解を定着させたい。

百葉箱代わりに、牛乳パックの底に両面テープをはって固定して使う。固定しなければ持ち運びもできるので、教科書 p.17 の観察①で使用するものの代替品にできる。

気温を測る条件

- ・温度計に日光が直接当たらないようにして測る。
- ・温度計の高さが地面から 1.2～1.5m ぐらいのところで測る。
- ・建物から離れた風通しのよいところで測る。

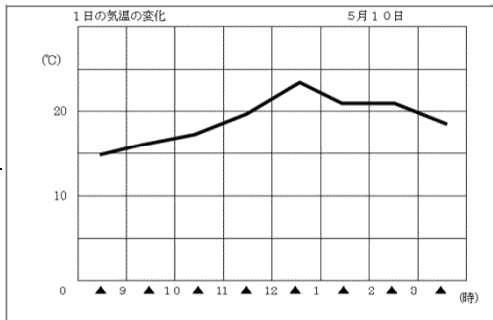
教科書 p. 159 を
見てみよう!

3 天気の違いと気温の変化の様子

教科書p.18では晴れの日、くもりの日、雨の日の1日の気温の変化について観察し、それぞれグラフを作成する。その後、児童は3枚のグラフを見比べながら、天気の違いによる気温の変化について話し合う。しかし、3枚のグラフに分かれているため、違いがとらえられない児童も見られる。そこで、話し合う前に各グラフの線を色別にし、1枚にまとめる。これにより明確に気温の違いが表示され、比べやすくなり、話し合いもスムーズに行われる。

折れ線グラフのかき方は、教科書 p.159を使って確認しよう！

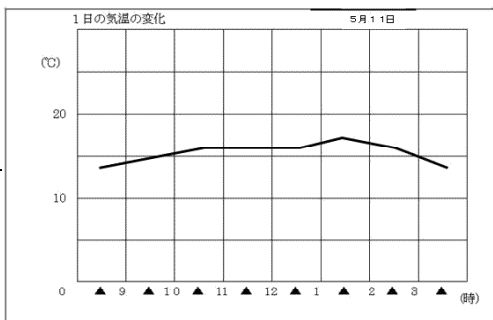
晴れの日



予想される児童の反応例

お昼近くになると、
気温がぐっと高くな
っているよ。

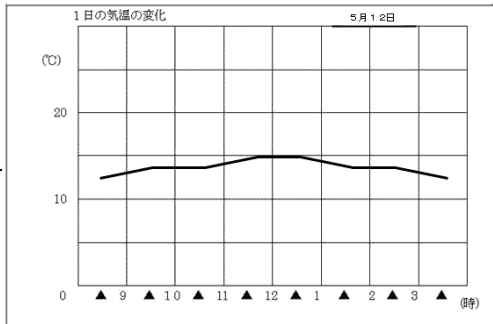
くもりの日



予想される児童の反応例

ちょっとはあたたか
くなるようだけど、あま
り変わらないよ。

雨の日



予想される児童の反応例

朝からほとんど変わ
りない低い気温だよ。

3枚のグラフを合わせる

